

情勢報告（平成28年1月分）

中央東農業振興センター 嶺北農業改良普及所

6次産業化セミナーを開催しました



せんべい焼き体験

12月17日に大豊町農業センターにおいて、6次産業化の裾野を拓げるため、普及所は「6次産業化セミナー」を開催し、玉緑茶クッキー生産者ほか12名が参加しました。

セミナーでは、普及所から県の取り組みを説明し、大豊地区農漁村女性グループ研究会が碁石茶せんべいの商品改善と販路拡大の取り組み事例の報告および碁石茶せんべい焼き体験を行いました。

参加者からは「加工活動を継続するために資金を貯めていきたい」「県の農業創造セミナーに参加したい」「現場の見学会や体験交流することで宣伝になり良かった」などの意見が出ました。

今後もこのようなセミナーを開催し、6次産業化に取り組んでいる、又目指す農業者を引き続き支援していきます。

伝統作物「紫豆」と「タマゴブロウ」の収量アップを目指して！



タマゴブロウの収量調査

大豊町には伝統作物としてインゲンの一種である「銀不老」豆があります。これに加え、紫色のインゲンである「紫豆」や、幻の豆といわれていた「タマゴブロウ」（白いインゲン）が一軒の農家によって保存・栽培されていたことが確認されました。

普及所では大豊町農業センターの協力を得て、紫豆の摘芯による増収効果と「タマゴブロウ」の品種特性を調査しました。紫豆の摘芯栽培は慣行に比べて約1割の収量増となりました。「タマゴブロウ」は「銀不老」に比べて発芽率が悪い上、側枝の発生が少なく、1株当たりの着莢数が少ない結果になりましたが、1株当たりの収量では「銀不老」に対して約15%増でした。

今後は、生産者から加工についての要望を受けて、加工研修会を開催していきます。

ブランド米の販売促進活動



ブランド米販売状況の調査風景

12月20～22日に本山町ブランド化推進協議会に同行し、生産者とともに東京都内での「土佐天空の郷」の販売状況調査と販売促進活動を行いました。

米販売店では、今年の「土佐天空の郷」の生育状況や交流活動を資料で紹介し、他県の売れ筋ブランド米の銘柄や価格について調査を行いました。いずれの米販売店でも「土佐天空の郷」は上位クラスに位置付けられており、これを維持するためには品質の維持と情報発信を継続して行うことが必要であることが判明しました。

参加した生産者からも「生産者自らが販売促進を行い、状況を知ることが重要だ」との感想が聞かれました。

普及所はこれからも販促活動を支援し、ブランド米産地が維持されるように支援していきます。

伊勢川営農組合、チョロギの加工品に取り組む



チョロギの収穫作業

伊勢川営農組合では、梅酢を使って、地区内の女性グループで取り組んでいたチョロギの加工品に取り組むため、今年度チョロギの試験栽培を行いました。12月に収穫したチョロギは、塩漬けを行ったほか、県内の旅館、レストランで料理に活用してもらうことができました。

今後加工品の試作を行っていくほか、飲食店での料理への活用結果や今後の可能性等について、料理人の声を聞きながら、次年度の栽培計画作成につなげていくこととしています。

柚子輸出事業関係者が集まり次年度の取り組みを検討しました！



検討会の様子

1月14日、柚子輸出事業の関係者による検討会の開催を支援しました。この会には、輸出に取り組んだ生産者、JA 柚子青果部会役員、JA 無農薬柚子部会部会長、JA 土佐れいほく、町・県など行政機関職員など20名が集まり、今年の実績とヨーロッパでの柚子青果・加工品の販売情勢を検討しながら、次年度に向けた取り組みについて協議し、輸出を継続していくことになりました。普及所は、輸出用の防除体系について他産地の情報提供を行い、次年度から黒点病の薬剤を加えて改善した防除体系を採用することに決まりました。

今後も普及所は、引き続き、産地協議会を通じて柚子の輸出を支援していきます。